

暗い……あまりにも…

薄氷の仮面

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

長平で40万死んだけど建て直した。王都の兵以外は全部貸した。元三大天の腹心の部下も貸した。合従軍の戦犯を一時的に左遷するだけに留めた。それでも明るくならない悼襄王に転生してしまった男の話。

目次

あまりにも暗いプロローグ	1
第1話 東と西	8
第2話 怪鳥の復活	15
第3話 韓皋城	22

あまりにも暗いプロローグ

大体の物語や漫画は、初期設定と後々の設定が乖離する。それは史実というベースとなる物語があっても、容易に起こり得ることだ。

趙の第9代国王である悼襄王とうじょうおうとして、キングダム世界に転生……憑依？してしまった俺はもの凄く絶望した。だって史実ではこの時期既に秦を止められる国力なんて存在しないし、本来趙のヒーローとして秦相手に活躍する李牧は李牧だし。

更に厄介なことに、この身体は病弱です。健康体そのものだった前世の身体が欲しいというか知っている分恨めしいです。現代日本と比較するなんておこがましいほど低い医療レベルだから仕方ないけど、効能が怪しい薬を飲ませるのは本当に止めて欲しい。

まあ趙が完全に滅亡する前に、自身の死が決まっていることは逆にありがたいです。気楽に王様RP出来るしね。さて今現在、趙国内の軍事評価は以下の通り。

「兵は文句なしに強い。騎馬隊は中華最強。しかし率いる者がいない」

……うん。廉頗がまだ趙にいてもこの評価なんだ。そりゃ廉頗が趙から離れたら趙は動くことが出来ないとかわられるのも納得ではある。しかし史実はともかく、キング

ダムでは質に差はあれど將軍は畑から大量に穫れる趙国である。廉頗一派がまだ趙国内にいるなら、それなりに軍事力はあるんじゃないかな。

まあこの畑から穫れる將軍の内、大半は使えない凡人だらけなのは問題か。紀擘軍3万対蒙恬軍5千で秦左軍不拔とかやらかしてるし。何で地の利と数の利があつて相手の軍は兵糧が尽きているのに勝ててないんだろ。これが紀擘軍5千対蒙恬軍3万で趙右軍不拔なら地方の名將紀擘だったのに。

というか軍事面で他国から舐められているほどなのに趙国内で趙軍対趙軍の戦争とかしているしね。とりあえずそれだけは回避するために、魏を攻めている軍の大將を廉頗から楽乗に変える命令は出さなかつた。これだけで廉頗が手元に置いておけるなら誰だつてそうするわな。あと楽乗は普通に内政面で有能だからここで死なれても困る。

ここで問題。廉頗は趙に残つて、楽乗も三大天を名乗らせて良いという状況、果たして李牧はいるのかいらぬのか。原作のキングダム登場時は結構な人気だった李牧だけど、最近では無能の代名詞感覚で李牧の名が使われているような状態。その最大の理由は朱海平原での敗北だろうけど、この世界ではそれは絶対に起きない。俺はたぶん合従軍を失敗させた時点で許せないと思う。

そもそも、金や兵を散々投入した合従軍を失敗に終えても前線基地の掃除だけで済んでる懐の深い王に対して「暗い……あまりにも……」は酷くない？次はないぞ李牧と言っ

て秦軍より多い数の兵、高い練度の水軍、藺相如の懐刀2人を付けて地の利のあるホムで敗北。まあ投獄もやむなしだわな。

李牧が一番活躍したの、もしかして燕に攻めて劇辛將軍を殺した時かな？その劇辛將軍、ちよつと俺が時間をかけただけでもうじき金で買えるんですけど……。まあ原作でも燕より金を積むなら移籍するって豪語してたしね。何なら劇辛將軍自体が趙出身だし秦より移る理由はあるという。というか劇辛將軍を倒して燕の領地を奪つたのが一番の活躍なのに、そのせいで合従軍最大の戦犯であるオルドが参戦しているのは本当に李牧が李牧してる証だと思うの。

あ、王騎將軍を殺したのは李牧の功績か。でも最後に殺したのは汚れ役を買って出た魏加さんだし、その魏加さんがいなかったら龐煖すら失っていた可能性が高いことを考えると評価は微妙。というか魏加さん中華十弓の1人だし、それを死なせたと考えると李牧の評価は凄く微妙。

あの戦、結局領地を奪えず軍の被害もこちらの方が酷いという戦争だしね。王騎將軍1人を殺したのを戦果としても、趙軍は趙莊、馮忌、涉孟、魏加さんを失って龐煖も怪我してるし、完全に出血多量である。

でも外交能力は高そうだし、文官としてならまだ活躍の余地はあると思うから北方から呼び戻します。武力はあるし、北方では無双していたから無視するわけにもいかな

い。三大天の一席はやらんがな。もうすでにその枠は廉頗、楽乗、劇辛で埋まります。楽乗は作中最強格の廉頗の腹六分目まで満たせるなら十分でしょ。何度か廉頗をヒヤリとさせたらしいし。

北方の備えは、地方の凡将紀彗と守備の李白と頭脳の馮忌に任せておこう。それらを纏めるのは李牧の元副官の馬南慈。馬南慈はまだあまりやらかしてない方の將軍だからマシに見えてしまう皮肉。それでも李牧信奉者というだけで印象悪いけど、無双状態李牧の副官だったならまあ仕方ない。やらかしていないのは単純に描写が少ないだけだけど、武力がめつちやあるのは確か。まあ李牧が抜けるなら李牧の副官が大将を務めるのは当たり前だし、大将を務めさせても大丈夫なんじゃないかな。

時は俺が悼襄王として即位した前245年。秦では王弟叛乱が起き、秦と魏が蛇甘平原で戦う年。趙の国力は決して低いものではなく、長平の戦いがあったのにも関わらず趙の軍力は結構高い。そして燕の大將軍、劇辛將軍を金で引き抜けそう。状況は決して良くはないけど、悪くもない。

翌年の2月に、秦が韓を攻めることも分かっているから趙は大きく動くことが出来る。ただ大きく動き過ぎると、魏から☒を貰えないかもしれない。前245年現在、☒が趙の領土じゃないのはキングダム世界だと違和感を感じるけど、前239年までは魏の都市だったから仕方ない。まあ、魏が同盟のために☒をプレゼントしてくれるで

しよ。特に今年、蛇甘平原で呉慶が死ぬからそこで突っつけばすぐに貰えるかもしれない。

既に魏の繁陽攻めを廉頗將軍が行っている最中だし、楽乗將軍も追隨する形で軍を展開している。……上手く話を纏めれば、☒を貰った上で魏と同盟は可能だ。何せあの魏は、絶賛侵略中だった秦とすら同盟を結ぶしな。

魏と同盟を結び、秦を撃退しつつ、燕を征服する。これが基本の方針になるだろうか。北への備えは出来ている。秦の相手を李牧、龐煖、劇辛にやらせて、燕への侵攻は廉頗、楽乗、堯雲、趙峩龍あたりにやらせよう。軍は幾らでも起こせそうな気がするし、この世界が完全にキングダム世界なら、趙が中華統一をする未来もあるかもしれない。

「前の王はアレじゃったが、悼襄王は中華を平定するかもしれんぞ」

「そんなにですか？ 私には先王よりも良い、としか把握しておりませんが……」

……そういえば、太子時代の噂というのを聞いたことがありますね」

「自身の噂は一切流すなど言っておったしの」

「しかし、繁陽を落とした後は軍を停止せよという命令は不自然ではありませんか？」

「……悼襄王は郭開を魏に向かわせている。話し合いの内容次第じゃが、郭開が死んでも魏と同盟を結べても趙にとっては大きな前進じゃな」

魏の繁陽を落とした廉頗と楽乗の2人は、本来の歴史であれば殺し合いを始めていたが、この世界では両者軍を並べて繁陽城付近に展開をしていた。5万という大軍を引き連れ廉頗の援軍として参戦した楽乗は、廉頗の悼襄王に対する評価を聞き、自身の悼襄王に対する評価を上げる。

廉頗は悼襄王の太子時代の教育係でもあり、幼い頃の悼襄王を知る数少ない人間の1人だった。そして齡3歳にして常に人を値踏みするような目付きだった悼襄王の教育係を務め、将来は恐ろしい王になるだろうと予感していた。先王の時代よりも、ずっと戦争が多くなるだろうと、廉頗は内心期待をしていた。

「郭開が自ら赴くとは思えませんが……では今、宮中を取り仕切っているのは李牧ということになりませんか？」

「そうじゃな。うぬもあの男を見たであろう？武力と知力、共に文句なしの武將じゃな」
「紀彗という男も將軍に任命していましたが、どこからあんな將を掘り起こしたのか……」

「趙国内の使える人材、というのを洗い出しているようじゃからな。少なくとも、先王よりかはずっとマシじゃ」

本来であれば、楽乗軍は壊滅していた。しかし楽乗軍を支える幕僚たちも戦死せず、廉頗も趙を去らなかつた。それだけでも趙国内の大幅な軍力低下を避けることが出来

ており、なおかつ在野から原作という未来知識を使って人をかき集めた現時点での趙の軍力は、秦と拮抗しているほどにもなっていた。

一月後。蛇甘平原で秦と魏の戦争が終着した頃。劇辛將軍が趙に移り、魏の大將軍である呉慶が討ち死にした。これにより秦と趙と楚という列強の脅威に晒されることとなった魏は、趙に☒を明け渡す形で同盟を結ぶ。

そしてすぐさま、趙は燕に戦争を仕掛ける。率いる軍の総大將は廉頗將軍であり、副將として楽乗、堯雲、趙襄龍、趙莊、涉孟といった面々が揃う趙の大軍は、燕の大將軍オルドの率いる軍勢と相對することになった。

第1話 東と西

春秋戦国時代、最も文化が栄えていたのは趙と言っても過言ではない。軍事力だけなら秦と楚が上だけけど、領内の発展具合で言えば趙も負けてはいないというか勝っている。

で、そこに現代知識で内政してもすぐにパクられて他領に広がるんだよね。そうなる、領地が秦や楚と比べて狭い趙ではむしろ大きな改革をしない方が良い。千歯扱きや肥料の概念とか与えたら、確実に他国に伝わるわこんなもん。

そんなことしなくても、趙国内は比較的物が溢れていて豊かな国だ。じゃあそんな国で王になった時、最初にすることは？ そうだね肅清だね。文官であり武官の李牧を使つて、腐敗している政治を是正する。こういう時、武力が糞高くて正義感の強い文官はめっちゃ便利。ずっと戦場なんかに出ずに文官として正しく趙を統治して下さい。

……でもこの李牧、本物という確証はないんだよね。原作が未完だから、後から史実のような本物の李牧が出て来てコイツは弟子でした展開は無くはない状態。というかそうである可能性は結構あると思う。原作は史実なら出ていない戦争に首突っ込んで李牧の戦績に泥を塗っている状態だしね。

まあその時は本物の李牧を秦との戦争で使おう。当分の間、秦との戦争は劇辛將軍が主力になる。高い金を払って雇ったんだから、不安は残るけどその分は活躍して欲しい。知略はあるはずだし、武力も龐煖には負けたけどその龐煖とセット運用が出来るから秦軍相手でも互角にはなるはず。……樂觀的に考えても互角予想って、いや本当に秦が強いから凄く辛い。

今下手に突っついて王騎將軍が復活しても厄介。なら当分は秦相手には防衛を基本として、燕に集中する形は間違っていないはず。秦と趙の同盟はしなないです。向こうに得しかないし、山陽取られるの癪だし。原作壊れる。もう既に崩壊した後だけど。

……東は燕だけじゃなくて、斉とも国境を接している。一部の国境は、楚とも接していて敵は多い。そんな中でかなりの国境で接している魏と同盟を結べたことは、滅茶苦茶大きいし郭開は政戦頑張れ。史実では完全な奸臣だけど、キングダム世界ならわりと功臣だし、結構期待はしている。

趙と燕の国境を越境し、燕の大將軍、オルドと相対した趙軍はまずその燕軍の構成に驚く。オルドの本陣にいる多くが山民族であり、他の軍にも山民族が入り混じっている混成軍だったからだ。そしてそれは、悼襄王が言う通りだった。

「出陣前に言っておくが、戦場は平地にしろ。山の上よりも丘の上。下手したら平地の

上の方が守りやすい。これは王命だ。出て来るであろう燕軍に山民族が確認出来た時点で、油断をするな」

平地の上よりも丘の上、丘の上よりも山の上の方が、基本的には守りやすい。それを覆すような命令の意図を、読み取れた者は少なかった。しかし廉頗は相對するオールド軍を見て、実際に丘の上や山の上に布陣するのは危険だと感じた。坂がある場所での戦闘と平地での戦闘は全くの別物だからだ。

特に勾配の激しい山の中腹辺りで軍が衝突した場合、平地とは違って坂道を駆け上がることもあれば逆に下ることもある。そうなった場合、軽装備である山民族の方が有利であり、平地で訓練している上に騎馬隊が主力の趙軍は不利を受ける。

「此度の戦は、出て来る燕軍を打ち滅ぼした上で城を落とさなくてはなりません。よって初戦ではこちらの被害を極力出さないようにする必要があるので、先陣はこの乗乗に任せて下さい」

「いや、うぬは介子坊と共に城を落としてこい。出て来る燕軍に対しては残りの全軍で当たる」

「軍を二つに分けると言うのですか!?野戦では全軍で燕軍に」

「ふん、戦場を平地にするのであればある程度は燕軍を釣らねばならぬ。

だからうぬと介子坊で城を落とし、そなたらの背を討つ援軍を側面から攻撃する。こ

れが一番であろう」

燕との国境付近で少し進軍を停止した趙軍の本陣では、将が集まって軍議を開くが廉頗と楽乗の話し合いは完全に廉頗が主導権を握っていた。そして廉頗が城攻めを行う楽乗と介子坊の背を討つ燕軍の背を討つという流れを決めると、輪虎と涉孟を呼び出し檄を入れる。

「輪虎！涉孟！いつものをやる！こつちに参れ！」

「はいはい」

「ブヒ」

廉頗が力を込めて涉孟に抱き着くと、今まで廉頗のことを内心では過去の遺物だと思っていた涉孟は、改めて廉頗の大きさを思い知らされる。一方の廉頗は、力強く抱き返してくる涉孟の膂力と体軀の大きさを見て、次代を担う将になれる可能性はあると感じた。

おおよその戦の流れが決まり、趙軍の先陣を切った楽乗と介子坊は共に2万の兵を引き連れ、合同で武陽という都市の周囲にある小城を落としていく。城攻めをする前に武陽の城主がほぼ同数である兵4万をぶつけて来たが、野戦のしかも開けた土地では騎馬隊が主軸の楽乗軍に手も足も出なかつた。

その後、燕の大將軍であるオルドが10万を超える大軍を引き連れ、武陽を攻める楽

乗・介子坊軍の背後に布陣する。武陽とオールド軍に挟まれた形となった楽乗と介子坊の2人は、あらかじめ決めた通り楽乗軍がオールド軍、介子坊軍が武陽の軍と向き合う。

無論、オールドは今回の趙軍の規模がこれだけではないことを知っていた。知ってはいないわけがないので、あらかじめ備えもしていた。しかしながら、突撃して来た趙軍の破壊力が凄まじく、対応に追われる羽目となる。

「殿、涉孟は少々自信過剰な所が欠点ですが、先鋒を任せても良かったのですか?」

「あれは先鋒で使う方が本人もやりやすいであろう。儂達が側面を突いたところで、中の楽乗軍、介子坊軍が窮地なことは変わらぬ。まああの2人であれば単独でも脱出は容易じやろうが……破壊力のある2人を並べて、燕軍の想定以上の攻撃にする必要はある」

涉孟の実力に疑問を抱く姜燕だったが、いざ戦が始まると涉孟の破壊力には目を見張るものがあつた。易々と燕軍の中へ入っていく涉孟は、輪虎と並んで燕軍を押し込んでいた。

「堯雲、趙峩龍はこの後に第二陣として出陣せよ。玄峰、本陣は任せる」

「おい待たんか。もう本陣から離れるつもりか?」

「当たり前じゃア。さつさと武陽を落として楽乗、介子坊の両軍を率いて燕軍を押し潰

す。玄峰はここが危うくなったら姜燕と魏加を使え」
「言われんでも分かつとるわい。」

中華十弓を2人も本陣に置いておくとは余裕じやな」

オールド軍12万の内、趙軍本体を警戒していたのは半数の6万。その6万に対し、2万ずつを率いて突撃した輪虎と涉孟の軍は善戦し、大いに押し込んでいたが、未だに楽乗と介子坊軍は挟まれたままであり、武陽から湧き出て来る援軍に苦戦をしていた。

そのため廉頗本人が動き、本陣の1万の精鋭を引き連れ、武陽からの軍を迎撃していく。さらに堯雲、趙峩龍もそれぞれ1万の兵を引き連れ、オールドの本陣を目掛けて攻撃を開始した。

戦場は堯雲軍、趙峩龍軍、輪虎軍、涉孟軍、オールド軍、楽乗軍、介子坊軍、武陽軍、廉頗軍と各軍が入り乱れる乱戦となった。こうなった時に、強いのは将が強い趙軍である。山民族は部隊毎で構成されており、隊同士の戦いであれば趙軍に引けを取らなかつたが、軍との戦いになった時には不利を受けた。

燕軍16万に対し、趙軍12万の戦いは、初日から両軍は血を流すが、出血が多いのは明らかに燕軍の方だった。

趙の国都で待つ悼襄王は、燕に遠征した趙軍から緒戦の勝利の報告を待つ。しかしそ

の報告が届く前に、別の知らせが届き、宮中を騒がせていた。

「韓を攻めていた秦が別の軍を起こして趙に侵略して来ただど!? 李牧は何をしている! 貴様が秦は動けないと言っていたではないか! しかも軍を率いるのはあの王騎だど!」

卒倒しそうだった悼襄王は、李牧を怒鳴りつけることで平静を保つ。悼襄王に「秦は韓に大軍で攻め込んでいるから、趙は燕に大軍を送っても秦は攻めて来ないよなあ? 李牧?」と聞かれた際に李牧は「ええ。間違いありません」と答えており、実際に失態ではあるので李牧は頭を下げた。

「貴様の失態は貴様が償え。李牧は龐煖と共に援軍を率いて劇辛將軍の軍に合流し、共に秦の侵略者共を皆殺しにしろ。あの秦の怪鳥を、貴様が必ず討て」

続いて秦軍の情報が入り、徴兵された兵も多いことが分かると趙の宮中には幾らか余裕を取り戻し、国境を守る劇辛への援軍として、李牧と龐煖を向かわせる。2正面作戦を強いられる形となった悼襄王は、それでも的確に指示を飛ばし続けた。

第2話 怪鳥の復活

趙が大軍を起こし、燕へ攻め込んだという情報はすぐに秦にまで伝わった。しかしその時既に、秦は韓に大軍で攻め込んでいるため、趙には攻め込めないはずだった。

「昌平君よ、韓に大勝して国民は活気づいている。そして趙との国境は、がら空きだ。攻め込まない手はない」

「いえ、趙の現代の王、悼襄王はそこまで愚かではありません。秦への備えとして、劇辛將軍を燕から買い戻したという情報が入っています」

「しかしそれでも国境を守る兵は少ないだろう。韓へ侵攻し、目的を達成した軍の一部を連れ戻し、徴兵した民と合わせれば趙の城を奪い取ることが出来る」

「……張唐殿を南の守備に置くという条件で」

「許す。そして趙への侵攻の最大の目的は、言わずもがな分かるな？」

「韓臯城でしょう？」

しかし趙の重要拠点である韓臯を奪い取るには、燕に大軍を送り込んでいる今しかない。秦の呂不韋と昌平君は判断した。本来のキングダムの流れでは秦趙同盟を李牧が持ち掛けた際、呂不韋に吹っ掛けられたことで秦に奪われた韓臯城だが、秦趙同盟だけ

は絶対にあり得ないという悼襄王の存在によってその原作の流れは崩壊した。

韓臯城は悼襄王が即位する前から城の増強の着手をしていたが、まだ完成はしていない。その完成を前に、奪いに行こうと軍を起こしたのが今回の秦軍であり、その総大将には王騎が据えられた。

その秦軍が趙と魏の国境付近にある、韓臯城に向けて進軍を開始したという情報が入った時、趙王である悼襄王は怒り、怒鳴り散らす。そして李牧に援軍を任せた所で、燕に遠征中の廉頗から情報が入る。

判子で封をしてある伝令は、使者から悼襄王の手に渡る。読んだ直後、悼襄王はそれを木端微塵にして叫んだ。

「燕軍16万を相手に奮闘中だが押されていて援軍が欲しい、だど!?!ふざけるなあ!李牧!お前が勝ると言ったよなあ!?!」

そして悼襄王は酒の入った盃を李牧に向けて投げるが、李牧はその酒を黙ったまま被った。李牧の側近達は少し苛立った声を漏らしたが、それを李牧が御す。

「申し訳ありません。私の計算間違いでした。しかし必ずや侵攻してくる秦軍を打ち破り、反転して燕軍を葬り去りましょう」

その後、小部屋で軍議が行われる。参加者は少なく、部屋にいるのは悼襄王と僅かな私兵。そして郭開と李牧と李牧の側近達だった。

燕を攻めている最中に秦軍が攻めて来たので作戦タイム。この小部屋には今現在、絶対に口を割らない人しかいません。郭開？コイツは自身の立ち位置さえ保障しておけばわりと功臣寄りです。どちらかと言うと李牧の側近達の方が心配なレベル。カイネとか特に暴走しそうだから見ていてハラハラする。

「すまなかつたなあ、李牧。燕からの詳細な戦況を今から伝えよう。」

現在武陽を落とし、燕軍燕人合わせて1万人を捕虜にしたようだ。大勝だ。しかし援軍を率いるオルドが上手く撤退したようで、主力はあまり削れなかったと」

「なっ!?!えっ?！」

「そうでしたか。武陽を落としとなれば、その周辺の平定で大忙しでしょう。そんな中、燕軍が解放するために攻めて来ることを考えるとあまり軍は引き抜けません」

「それは分かっている。となれば、あの王騎相手に兵力少数で当たらなければならぬ。」

「……追い返すだけなら可能か？李牧」

「……王騎が死ぬまで撤退はしないでしようから、結局王騎の首を狙うことにはなりそうですわね」

悼襄王の燕相手に大勝したという情報で、驚いた声を出したのは李牧の傍にいたカイネだけだった。近衛兵達は俺が演技派だって知ってるからもう驚かないし、ちよつと新

鮮な反応。逆に傳抵は黙り込み、こちらを信じられないものを見たかのような目で見つめて来る。男に見つめられても嬉しくねーよ。そして俺が燕からの報告に真逆の反応をすること、李牧はカインに伝えてなかったのか。これは知将李牧。

秦からの侵攻を読めなかった時点で恥将でもあるけどそれは俺もなのでセーフ。いやだつてマジで韓には大軍で攻めていたし、こつち来るとは思わないじゃん。キングダムを読んだことのある人なら、ほぼ確実に好きな武将トップスリーには入るであろう王騎將軍。その王騎が敵だと思うと憂鬱な気持ちになる。王騎の配下達も強いし劇辛で耐えられるかは不明。

「最悪劇辛を餌にしても良いし、王騎は必ず討ち取れ。龐煖なら勝てるだろ。一騎討ちに李牧が交ぎつて2対1でも良いぞ。」

あと郭開は、ちゃんと秦王の母の実家を突き止めたんだろうな？」

「は。きちんと捕縛してあります」

「ならばよし」

郭開には郭開で指示を出しており、秦王の母親の実家を突き止めて捕縛するよう言っている。あの光の王に対する、良い交渉材料になるから重要な任務だったけど無事達成した模様。やっぱこいつ功臣だわ。絶対に重用はしないけど。

劇辛將軍が率いている直下兵と、秦との国境付近に展開する軍は合計で3万人ぐら

い。そこに李牧と龐煖が5万を率いて合流するけど、それでも計8万人か。……キングダム世界だと少なく感じる数だけど、10万を超える大軍を燕に派遣しながら秦相手にこれだけの軍をぶつけられるって人の数が異常だわ。

なお王騎が率いる軍の規模は、15万ほど。どうやら韓との戦で、一回も交戦しなかった部隊が多くいたようで、そいつらが合流しているから単に徴兵しただけの軍じゃない。あの王騎がほぼ兵力倍で攻めて来るとか糞ゲー過ぎるわ。というかこれがこれからずっと続くとか不安しかない。

……攻めて来る秦軍には、キングダム主人公の信もいるだろうね。後々強大な敵になると分かってるし、可能なら早めにぶつ殺したいけど今はまだ知名度も皆無な数多くいる百人将の1人だからなあ。まあ趙軍全体に若い指揮官は後々厄介になるから早めに殺せと伝達するしかないわな。これで効果があるかは知らん。

燕に攻めこんでいる軍は、まだ余力がありそうな魏加と姜燕の軍を中央に戻して転戦させる。何なら王騎と龐煖の一騎討ちの時、弓矢で横やりを入れて王騎を貫いても良いよ。というか貫け。あれを早いこと殺さないで、趙としては中華統一の難易度が2段階ぐらい上がる。

下手を打つたと言えはそれまでだけど、燕のことは舐め過ぎていた。劇辛將軍を引き抜き、趙の原作で強かった將軍をズラリと並べて、精銳の騎馬隊を揃えれば武陽どころ

か燕の国都である薊まで落とせるかと思っただけど、そこまで進軍するにはやっぱりかなりの犠牲を払わないといけないらしい。廉頗がそういうならきつとそうなんだろう。この時期の趙ってだけでやっぱり難易度ハードだわ。

現時点では、対秦の国境にいる3万の兵と劇辛將軍が王騎率いる秦軍をどれだけ耐えられるかという勝負にもなっている。……いやそういえば、対秦軍のために秦との国境付近には万極を配置していたな。万極の直下兵達は原作通り長平の戦いの遺児達で構成されているし、特に防衛戦なら勝手に死兵になつてくれるはず。

劇辛將軍の直下兵も結構な数が趙に移籍したし、李牧と龐煖の援軍が間に合う前に韓皐城が落ちることはないだろ。完成していないとはいえ、現時点でも結構な堅城だし、城主は一応原作キャラの豪紀様だし。

「豪紀には撤退をするなと伝えてある。というか撤退したら死罪だと伝えた。劇辛將軍の精鋭部隊である毒犬と毒猫は趙の精鋭の騎馬隊を遥かに超える速度を持っているし、万極の軍は決して士気が費えることはない。……どうだ？王騎を討つ策略は見えたか？」

「……ええ、僅かにですが」

「ならばさっさと行け。あと邯鄲の兵は貸さんからな」

「今邯鄲を含む王都圏を手薄にしてしまえば、魏や楚に攻め込まれた時に対応出来ませ

んよ。最悪齋が水軍を使つて一気に王都圏へ攻め入つて来る恐れも」
「分かつているならさっさと行け」

李牧に現時点での趙が秦相手に割ける戦力を全て任せて、出陣を見送る。というか蹴り出す。うん、総大将李牧の時点で凄く不安だ。「勝った!」と確信したドヤ顔を見せた後に「ん?」とか言つて凄い見落としをして大敗しそう。

第3話 韓皋城

秦との国境にも、魏との国境にも近い趙の韓皋城を目指して王騎の率いる秦軍15万が迫るといふ報告を受けた劇辛は、韓皋城のやや北にある屯安の城へ入城していた。西と東で直接刃を交えたことは無いが、同じ時代を生きた大將軍として劇辛は王騎を高く評価しており、気が付けば矛を持つ手が震えていた。それを部下達に悟られないよう、檄を飛ばし、斥候からの情報を待つ。

「劇辛將軍、どうやら秦軍は韓皋城まであと4日ほどで着くとの情報が」

「報告！李牧率いる援軍が到着するまであと5日です！」

「ふん、僅かに間に合わなかったか」

攻めて来る秦軍15万に対して3万と数が少ない上、援軍も遅れてくることが発覚した劇辛軍は、韓皋城へ入り籠城するように献策する者が多かった。しかし劇辛はこれを跳ね除け、万極に1万の兵を持たせて屯安から逆に秦国へ侵攻を仕掛ける。

本来であれば、1万という兵数で秦の奥深くまで突っ込むというのは無謀な作戦であり、任される将や兵は拒否することすらあるだろう。しかしながら、今回その特攻任務を劇辛が任せしたのは万極とその部下であり、万極は喜々としてその任務を引き受けた。

下手すれば全滅という可能性があるのにも関わらず、それでも彼らがその任を引き受けたのは長平での秦への恨みからだった。

1000人単位の隊に分裂し、秦の国境付近の村々を襲う万極軍。鬱陶しい存在が越境して来たことに対し、王騎は即座に対応する。

「騰。2万を率いて入り込んで来た趙軍を捉えなさい」

「ハ―」

1万の万極軍に、2万の兵を割いたのは同数だと討ち漏らす危険性があるからだ。その危険性を王騎はよく知っており、万全を期すために一番信頼の置ける騰に殲滅を任せ

る。
そして15万という大軍から足の速い2万を抽出したために、行軍は少し遅れる。結果、李牧の援軍は間に合うことになった。

「秦軍13万、対してこちらは民兵を含めても8万ですか……」

守るだけであれば、確実に韓皋城は落ちないでしょう。姜燕殿、魏加殿が率いる援軍が着くまでは守りに入るべきですが……問題は秦が後続の軍を出すかどうかです」

「必ず出す！秦にとつての韓皋城は、喉から手が出るほど欲しい城だからな。何せ、あの王騎を復活させてでも欲しい城だ。魏、趙、秦の3国にとつてこれほど重要な拠点はな

ところで李牧よ。総大将の座は明け渡すが、俺が率いる中央軍の戦い方まで口出しさせんからな？」

「もちろん。むしろ天下の大將軍である劇辛將軍に総大将を代わって欲しいぐらいですよ」

「ワツハツハツ！それはならん。李牧を俺の後進として、育成しろとの命もあるからな」
李牧が総大将であることは悼襄王からの指示でもあるが、劇辛がそれに反発する可能性を考え、悼襄王は手紙で李牧の育成をしろとの命令を劇辛に出していた。

それに気が乗った劇辛は、軍議で幾つかの発想を李牧に伝える。それは春秋戦国時代で一番の軍師だともされる、軍神楽毅の戦役の知だった。

秦軍と趙軍が対峙し、李牧は王騎を討つために野戦を選択する。中央には劇辛將軍が入り、左翼には韓皋城城主の豪紀、右翼には老将である晋成常が入った。

援軍を率いる李牧を見送った後、俺はお仕事をして疲れた身体を大きな風呂で癒す。いやあ、この時代でもお風呂に入れるキングダム世界は凄いわ。めっちゃ癒される。

「ふう」

「アハハハハ！」

「クスクス！」

「フフフ！」

原作でも、悼襄王はお風呂に入るシーンが多かった。というか死に場所もお風呂だった。郭開が原作で悼襄王を庇う際に「日頃のお疲れを癒している最中だ」とか言つてた気がするけど、悼襄王になって分かったことは、悼襄王はマジで日頃の疲れを癒してただけだったということ。

……一国の王が行う、とても重要で大きなお仕事と言えば子作りである。悼襄王にも子供がいるのは原作からして分かることだし、当然史実でも子供は存在している。あれだけシヨタコン描写されていても、やることはやっていたということだ。というかあれだけのシヨタコンなら、子作り自体苦痛だった可能性はある。この時代の宮女は基本肉食系女子ですし。

「五月蠅いぞガキども！それだけ元気ならさっさと揉め」

「はーいー！」

なお俺はシヨタコンじゃないのでこのお風呂にはロリもいません。というか名家の息子娘が沢山います。今ここにいるのは今代の王である俺と、次代の王である嘉の2代に渡つて仕える奴らということだし、裏切らないように洗脳教育……いや調教……裸の付き合いをしている。

俺が揉めと言つたら、身体の隅から隅までマッサージしてくれる子供達。王として一

番重要な仕事のせいで身体が疲れているので凄くありがたかったりする。なおこの子供達に見捨てられる未来が原作的にあり得るといふ悲しい事実。せめて今だけは王を堪能するために母性溢れるロリっ子の膝枕でウトウトする。短命は確定してるし、これぐらいの役得はあつて良いだろ。

湯から上がり、王の寝室に戻ると先ほどまでイチャコラしていた幽連が眠っている。……原作ヒロインである羌？の敵であり、わりとあつさり退場した殺人鬼でもある。蚩尤を嫁にするとか気でも狂ったのかと原作読者には言われそうだし、実際部下達には気が狂っていると散々言われた。

しかし場所が分かっていて、上手く行けば間違いなく最強格の護衛が手に入るというのに、俺が行かないわけないだろう。あ、別に原作不遇キャラ救済とか崇高な目的は無いです。ただ単にひたすら都合の良い女がフリーだったから王の威光を頼って捕まえただけ。

「どうした？ニヤニヤして。気持ち悪いぞ」

「いや、最近は丸くなつたなつて。あ、身体のことじゃないぞ？たぶん身体の方も丸くなっているけど」

「殺す」

少々からかうと、わりと殺気が込められた殺害宣言を為されるけど別に手は出してこ

ない。2年ぐらいかけて求婚したかいはあったということだ。殺されかけたけど。と
いうか現在進行形で殺気向けられてるけど。

「王騎か。私がパツと行ってパツと首だけ持って帰ってこようか?」

「龐煖が行ったから心配はいらんぞ。というかそういうことは頼まないって言ってるだ
ろ」

「……強情な奴め」

「お互い様だろ」

寝床の上で、秦軍と趙軍が無事相對し、劇辛將軍率いる中央軍が奮戦しているという
開戦初日昼までの報告が届いたので、その報告書を読む。でも実際に起こったのは3日
前だから、もうそろそろ決着は着いているはず。少なくとも、姜燕と魏加の援軍は着い
た。ここからだ、本当に祈るしかないのが辛い。

あ、今は格好つけてお前に頼らないとか幽連に言ってるけど本当に不味い時になった
ら頼る予定です。普段から頼っていたら格好つけて言った口説き文句が泡と消えるし、
実質最終手段。だけど保険は幾らあっても困らない。

……報告書を読んで気になったのは、開戦5日前に秦の領内へ特攻したと書いてある
万極軍の存在だな。どうやらこの1万程度の万極軍を相手に、王騎は2万の兵を差し向
けたらしい。ここで1万の兵力差を削っているの、地味に大きいし劇辛の手柄だ。軍神

楽毅の戦を全て盗んだと豪語しているだけはある。万極軍がどうなったのかは知らん。

後は昼までの戦いだけど、劇辛の最強の手駒である毒犬が中央に突っ込んで来た蒙武軍を背後から襲っている最中らしい。どうやって回り込んだし。いや速度が異常なこととは分かっているけど、突っ込んで来た軍の背後に回って後続の軍を狩りつつ蒙武軍の背を討つて強すぎだろ。

というか蒙武がいるのか。原作でも韓の侵攻には関わってなかったし、王騎と一緒に馬陽の戦いで趙軍と戦っていたから、侵攻して来た軍にいるとは予想出来ていたけど、実際にいるとなると荷が重い。……将来的なことを考えると蒙武も討ちたいけど、難しいだろうなあ。